

授 業 科目名	【 G カリキュラム】 商法(手形法・小切手法)Ⅰ ※本年度は開講せず		その他参照	開講年次	【 G 】 3 【 EF 】 3	単位数	【 G 】 2 【 EF 】 2
科目区分	専門科目：【 G 】 教科及び教科の指導法に関する科目（－・－・－・－）／【 EF 】 教科及び教科の指導法に関する科目（－・－・－・－）						
担当形態	単独	【 G 】 教員の免許状取得のための（－・－・－・－） 科目 【 EF 】 教員の免許状取得のための（－・－・－・－） 科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	“ 手形・小切手法を学べば法律全般が理解できる ”			担当者	織田 恭一		
授業概要	【（銀行実務）経験を生かした授業】						
	手形・小切手法は、元来、商人間の実務の要請から誕生した法律であり、学問である。特に現代の手形・小切手法は、手形・小切手交換制度、手形紛失・手形トラブル等の銀行実務と深く関わっており、銀行実務を離れて手形・小切手法を理解することはできない。そこで、全授業時間を通して、銀行実務経験（1970～2001）を踏まえ、手形・小切手法の内容を深く学ぶ。						
	【概要】						
	手形・小切手法は、企業社会に就職しようとする学生や、各種国家試験に挑戦しようとする学生、既に企業社会で活躍されている一般社員から取締役に至るまで、ぜひとも学んでおかなければならない重要な法律である。そこで本授業では、履修者が手形・小切手法の基礎的知識と基礎的理論を習得することを目指し、それが実際の企業社会にどのように活かされているか等についても分かりやすく講義する。						
履修条件	【到達目標】						
	手形法の基礎知識及び法理論の修得により、企業社会での活躍及び各種国家試験等に対応できるようになる。						
	・特に企業への就職を考えている者又は各種国家試験に挑戦意欲のある者						
	・第 1 回の受業に必ず出席すること（授業のガイダンス、授業外学習を含めた学習方法、成績評価方法を説明します。）						
教科書・ 参考書	【教科書】 織田恭一 著 「手形法・小切手法」（ビジネス教育出版社） 【参考書】 特になし						
授業回数	授業内容						
1	手形・小切手法学習のガイダンス、手形・小切手の役割と概要						
	予習：手形制度と小切手制度について（1 頁から 20 頁）（計 90 分程度）。			復習：手形制度と小切手制度の相違について徹底理解（計 90 分程度）。			
2	手形行為と手形理論						
	予習：手形債務の成立について（26 頁から 32 頁（計 90 分程度）。			復習：創造説、二段階創造説、交付契約説の徹底理解（計 90 分程度）。			
3	手形の偽造・変造						
	予習：手形債務の成立について（47 頁から 56 頁）（計 90 分程度）。			復習：偽造と変造との相違について徹底理解（計 90 分程度）。			
4	手形の振出と原因関係、手形要件①						
	予習：手形関係と原因関係について（57 頁から 65 頁）（計 90 分程度）。			復習：手形関係が原因関係に及ぼす影響の徹底理解（計 90 分程度）。			
5	手形要件②						
	予習：手形要件の種類について（66 頁から 74 頁）（計 90 分程度）。			復習：個別手が要件につき徹底理解（計 90 分程度）。			
6	白地手形の意義と白地の不当補充						
	予習：白地手形と不当補充の概要（75 頁から 80 頁）			復習：学説・判例につき徹底理解（計 90 分程度）。			
7	手形の裏書と裏書の効力						
	予習：手形の裏書と三つの効力（81 頁から 89 頁）（計 90 分程度）。			復習：学説・判例につき徹底理解（計 90 分程度）。			
8	第 1 回理解度テスト及び解説						
	予習：第 1 回～第 7 回（1 頁から 89 頁）（計 90 分程度）。			復習：第 1 回理解度テスト及び解説の徹底理解（計 90 分程度）。			
9	善意取得						
	予習：所有権の移転との関係について（96 頁から 99 頁）			復習：民法の即時取得との相違を徹底理解（計 90 分程度）。			
10	特殊な裏書						
	予習：特殊な裏書の例について（99 頁から 113 頁）（計 90 分程度）。			復習：白地式裏書と取立委任裏書を徹底理解（計 90 分程度）。			
11	人的抗弁の切断と悪意の抗弁						
	予習：二つの抗弁の内容について（114 頁から 124 頁）（計 90 分程度）。			復習：学説・判例の徹底理解（計 90 分程度）。			
12	特殊な抗弁						
	予習：特殊な抗弁の内容について（134 頁から 144 頁）（計 90 分程度）。			復習：学説・判例の徹底理解（計 90 分程度）。			
13	手形保証						
	予習：手形保証と民事保証の相違（145 頁から 156 頁）（計 90 分程度）。			復習：保証と事項との関係について徹底理解（計 90 分程度）。			
14	適法な支払呈示						
	予習：適法な支払呈示とは（157 頁から 164 頁）（計 90 分程度）。			復習：適法な支払呈示の効力について徹底理解（計 90 分程度）。			
15	第 2 回理解度テスト及び解説						
	予習：第 9 回から第 14 回（96 頁から 164 頁）（計 90 分程度）。			復習：第 1 回理解度テスト及び解説について徹底理解（計 90 分程度）。			
評価方法	理解度テスト（2 回）で評価します。						
評価基準	上記授業内容について、よく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。単元の内容についての理解や表現が不十分である者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者についてはその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、理解度テスト欠席など、評価不能の場合には「F」とする。						
その他	真に実力をつけたい学生は、極力、出席すること。 ※G 刈：法【-】ｽﾎﾟ【-】情【-】／EF 刈：法【-】ｽﾎﾟ【-】経【選択必修（β）】						